

「インクルDB」の授業での活用

玉川大学 新谷喜之

【授業の概要】「特別支援教育」(2単位；選択・2クラス)

① 15名のクラス、②5名のクラス

- ・2018年度の後期セメスタにおいて「特別支援教育」(2単位；選択)を開講
- ・15回(1回；100分)の授業のうち7回において、発達障害を含む各障害について、定義、特性と教育的ニーズ、指導・支援の実際について学習
- ・各回のグループ・ワークの課題として、「インクルDBで事例を検索、効果的な指導・支援方策について、意見交換を行うこと」を課した。
- ・毎回、事前に調べてきた事例について、事例選定の理由、効果的な指導・支援方策等について報告し合い、効果的な指導・支援方策について比較、その共通点や特徴等についてまとめ、全体で発表を行った。
- ・教員を目指す学生が受講しており、現場感覚で臨場感をもって授業に臨めたようである。
- ・個々の障害の具体的な指導・支援の理解や特別支援教育への興味・関心の涵養につながった。
- ・インクルDBの存在を全く知らなかったのもっと早く知っていたら、教育実習や介護等体験で活用できたのにと残念がる声もあった。

【学生の感想】

- ・「特別支援教育」の授業において特に印象に残ったのは、「インクルDB」の存在です。障害のある生徒を指導する時に、インクルDBに載っている類似事例を分析することで、Aという障害のある生徒はこのような指導を行う、Bという障害のある生徒を指導するには、このような点に気をつけなければならないと、指導の方針及び注意点を固めることができるため、とても役立つサイトであると印象に残りました。
- ・インクルDBで調べた事例を、グループで報告し合い、どのように対応していたかなど意見交換することで、様々な年齢の子どもの症状や対応の仕方などを聴くことができ、濃い内容の授業になりました。
- ・グループ学習の時間がそれほど多くなく、インクルDBの事例を使って、もっと踏み込んで、具体的事例と照らし合わせながら、指導計画・支援計画について詳細に検討するような学習をしたかったです。
- ・特に印象に残ったことは、インクルDBを用いての発達障害のある児童(自閉症)の実

例から有効策について考える学習活動だった。ゼミにおいても特別支援教育の対応について考察をする場面は多くあるが、教育現場の最新の事例から考察することは難しかった。インクル DB の存在を知ることによって、ゼミにおいても事例という根拠をもって考察できるようになった。

- ・特に印象に残ったことは、「インクル DB」です。このような支援データベースがあることにまず、驚きました。私たち学生にとってもとても勉強になる教材ですが、現場に出た時にも役立つものだと思います。これから使わせていただき、子ども達への対応の仕方の参考にさせていただこうと思いました。ゼミの卒論を書く際もインクル DB を活用させていただきました。
- ・自分が出会ったこともなく、身近にいるわけでもない特別支援教育を必要とする様々な障害について、(インクル DB で) 事例を検索し、グループで議論でき有意義だった。
- ・インクル DB の活用について；現場に出た際、障害のある児童の対応に悩んだときには、非常に参考になる手段だと思います。アプローチの方法が細かに記されていることが印象的です。
- ・授業で印象に残ったことは、インクル DB の存在。これからも活用していきたいと思う。

※15回の授業についての各学生による「最後の振り返り」の記述からの抜粋。当方からは、「印象に残ったことは何か？」という問いかけだけであり、インクル DB への言及は求めている。